

第 6 3 2 回 放送番組審議会

議事録

2026年9月15日（火）



第 6 3 2 回 放送番組審議会

1. 日 時 2026年9月15日（火） 午後1時30分

2. 開催場所 テレビ岩手6階 大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 7名

委員長 岩舘 めぐみ

副委員長 菅原 和宏

委員 大森 健史

委員 千葉 幸子

委員 立花 工

委員 飯田 雄太

委員 阿部 英則

欠席委員 2名

委員 中野 美知子

委員 渡邊 里沙

社側出席者

福士 千恵子 代表取締役社長

池田 学 専務取締役経営企画局長

遠藤 弦 専務取締役

小形 恵一 取締役報道制作局長

丸谷 尚史 編成局メディア開発部長

今野 あさひ 報道制作局報道部

事務局

桑島 広実 （執行役員編成局長）

4. 議題

1. 8／11（火）15：50～16：20

「ニュースプラス1特集 楽園を未来へ ―震災15年 生き残った俺たちは―」

2. その他

5. 資料（資料として以下のものを配布）

・視聴者からのご意見

6. 意見

【委員側意見】

○災害公営住宅の後継者問題は、取材した団地だけではなくすべての災害公営住宅に当てはまるものと推測される。被災地それぞれに問題や課題があると思うが、この団地の明るく元気に前向きに取り組む姿が番組からよく伝わった。

○東日本大震災から15年がたち、被災者の生活、行政の復興事業や支援、報道機関の役割も岐路に立っていると感じた。番組内で識者のコメントなどもあれば、より内容が引き締まり密度が高まったのではないかと感じた。TVerでの配信があり、全国の人々に教訓を伝えていくのも被災地のテレビ局の役割なのだなと感じた。

○報道で災害公営住宅を取り上げることは少なかったと思うので、この番組が実情を広く伝える役割を果たしていたと思う。災害公営住宅が抱える課題は、県内の農村部や古い団地での課題と類似していることを感じた。コミュニティの場をいかに作り継続していくかということは、容易ではないことを再認識した。

○自治会の活動の問題はこの団地に限らず全国共通の問題であり、災害公営住宅特有の問題として取り上げられていることに少し違和感があった。全国で起きている問題としてとらえながらこの自治会長の活動を紹介してもよかったのではないかと感じた。

○10年かけて築き上げてきたこの楽園を未来につなげたいという会長の強い思い、前を向く姿に心を打たれた。一地域の自治会長の奮闘記にとどまらず、深い問いを視聴者に投げかけている見ごたえのある番組だった。地方が直面している少子高齢化という問題の縮図が見えた。制作陣の丁寧な取材に感銘を受けた。

○登場する方々の何気ない一言や、心の底から絞り出されるような重みのある言葉などをうまく切り取って、番組を作っていた。小さなコミュニティの日常を通じて、沿岸の被災地が抱える人口減少などの厳しい現実を浮き彫りにしていた。

○被災者が現在どのような生活をしているかを追いつけるのは大切なことだと感じた。時間をかけて丁寧に取材したドキュメンタリーだった。皆さん前向きで明るい笑顔で良かったと思う一方、15年経った今の問題や、暮らしていくうえでの不安なども切り出してもよかったのではないかと感じた。

【局側意見】

○楽園をこのまま継承しようとする自治会長や仲間たちの姿を通じて、災害公営住宅はもとより、地域の未来をどう推し進めていけばよいかを考えながら番組を制作した。

○知り合いから「アパートを盛り上げている自治会長がいるよ」という話を聞いたことが、取材のきっかけになった。

○識者のコメントを入れることも検討したが、30分の番組の中で何を優先して伝えていくかを考えると、自治会長たちの生き方を厚く描くことを優先する方が良いと判断した。

○県内のほかの公営住宅でも高齢化や少子化などの課題があることを把握し、課題が幅広い範囲のものであることを視聴者に伝えたいという考えはあったが、この番組ではその表現が出来ていなかったかもしれない。

7. 審議機関の答申または意見の概要公表の方法及び年月日

①自社放送 9月24日（木）11:25～11:30「あなたと歩むテレビ岩手」

②テレビ岩手本社での据え置き